1 月報(2021 年) 萌　カトリック福山教会

福山教会活動テーマ：
「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808　福山市昭和町 7―26
☎【084】923-0614　FAX【084】923-0615
e-mail ：fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

新年あけましておめでとうございます　　猪口神父

新しい年を迎えました。旧年中のご厚情に感謝申し上げます。

司祭の異動は、単に住居を変えるという話ではなく、新しい場所で新しい人々と共に生きることです。それは本来司祭自身の生き方の変化を要求するものです。昨年小教区主任司祭として着任したばかりで、通常ならば小教区の体制に変更を加えることはしないのですが、新型コロナウィルスのパンデミックの前に多くの対策と新しい態勢を余儀なくされ、皆様にご迷惑をおかけしたと思います。

しかしまた、司祭は小教区聖堂や司祭館の管理人ではなく、小教区の司牧を委ねられた牧者であることは皆様ご存知と思います。ただ祭司の務めとしてミサ等の典礼や秘跡を執行していればよいというものではなく、そこに用があって訪う人だけ、そこに集う人々だけを対象として働くわけでもありません。ミサのたび「あなたがたと多くの人のために流される」と主の言葉を唱え、「わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる」と言われた善き牧者である方に倣って生きて行くのです。

さらに教会は教会それ自体が目的なのではなく、神によって呼び集められた人々の集いであることを忘れないようにしましょう。私達は神を目指して集っているのです。私達は洗礼の時、教会に信仰を求め、古い生き方を離れることを「悪霊とそのわざの拒否」によって示しました。教会は常に「聖霊の息吹にいかされて」、新しい生き方に生きる者です。

さて、年が改まったとは言っても、昨日と今日とに大きな違いがあるわけではありません。新型コロナウィルスが消え去ったわけではありませんし、私達の小教区共同体の在り方が劇的に変わるわけでもありません。旧年中に私達が迫られた色々な変更が、またなかったことになって元通りになることが求められてもいません。

とはいえ、それを悲しいこととしてばかり受け止めることもないでしょう。危機の時、教会はいつも本質的に大切なものは何か見つめ直し、そこに新たな希望を見出してきました。私達はこの一年の間に、聖体の大切さや共に集うことの大切さを改めて認識しましたし、今迄であれば余り行われることのなかった現代の情報機器を用いた連絡方法やミサへの霊的参加の方法を見出しました。そして、ただ慣習に囚われているだけのことについて、勇気をもって取りやめたり廃止することもできました。

旧年中はこの変化を強いられて受け容れる一年でしたが、是非ともこの新しい一年には自ら進んで新しい生き方や在り方を見出し、信仰と希望と愛において教会が若返って欲しいと願っています。

新年に向けて　　ダン神父

明けましておめでとうございます。

新しい年の初めに私たちはどんな思いをもって出発したでしょうか。

毎年最初のミサは、神がイエスを祝福することから始まります。私たちは旧約の民数記で、神ご自身がモーセを通してアロンとその息子たちへの祝福の祈りを読みます。旧約の民と同じように主はあなたを祝福し、あなたを守ってくださいます。主は顔をあなたに向けて輝かせ、あなたに恵みを与えてくださいます。主は、あなたを親切に見守り、あなたに平安を与えてくださいます。旧約の言葉は、新年と共に神の祝福が新たになります。これは一年を通しての私たちへの祝福です。

生まれた時は無力に見えるかもしれませんが、神の真の善はそれを変え成長させ、満たしそして恵みにあふれさせます。そして多くの場合、それは信じられないほどですが、不可能が可能になります。天使が言ったように、神にとって不可能なことはありません。

マリア様は地上の人間の声ではなく、主の霊の力によって身ごもりました。従って、マリア様が産んだ子どもは神の子でした。今日私たちはおとめマリア様を母性に変えた神を崇拝するとき、マリア様の神聖な母性を崇拝します。神様は私たちに母マリア様を与えてくださいました。神様がマリア様を祝福されたように、私たちも祝福されます。

一年を通して、人となられたみ言葉と共に生きられたマリア様の姿勢を自分のものとすることを心に決めてください。そうすればいつも身近に人となられた神様を見出して、マリア様のように私たちの心と精神は祈りの内に神様のみ旨を知ることができるでしょう。

新しい年にも喜ばしいことやそうでもないことなど様々な驚きもあると思います。マリア様のように、いつも神様に信頼しましょう。皆さんにとって新しい年が神様の恵みと喜びに満ちたものでありますように。

待降節黙想会　　講師：ジョン・ボルドン神父様

フィリピン宣教会　Mission Society of the Philippines　：１９５５年、フィリピンCBCP（フィリピンカトリック司教団）によって、設立された。フィリピンの（ラグナ）に本部。会員は、日本・台湾・韓国・タイ・ネザーランド・ベルギー・アメリカ・ニュージーランド・オーストラリア・パプアニューギニア・ドバイ・オマーン・クックアイランド・トケラク島・ツバルに派遣されている。日本には、那覇教区・京都教区・広島教区の３つの教区だけ。広島教区は、ダン神父と岡山教会のジョン・ボルドン神父の二人。

１２月５日（土）・６日（日）、現在、岡山教会助任司祭で、ダン神父さまと同じフィリピン宣教会のジョン・ボルドン神父さまを講師にお迎えして、待降節の黙想会がありました。テーマは、「ホームカミング」。ジョン神父さまが、ダン神父さまを助手に、写真や動画等映像を交え、プレゼンテーションをしてくださいました。

まず、自己紹介。自分の所属のフィリピン宣教会や、自分の叙階（2017 年）、年齢（32 歳）、会で一番若い司祭だと話されました。

お話は、１．イエスの最初の弟子としてのマリア様　２．イエスの人生に於けるマリア様の役割等マリア様の信仰とその生き方について話され、私たちの生活の振り返りを促されました。叙階前の自分のフィリピンでの司牧体験を写真や動画で紹介され、お話を進めてくださいました。フィリピンの厳しい政情と信仰者の豊かな生き様が見えてきました。最後にマリアの賛歌を祈り、半日の黙想を終えました。

待降節中の小さなお話　　伊藤　望

11 月 29 日（日）教会大掃除の日に日曜学校は例年通り馬小屋づくりをしました。馬小屋ができ、ツリーが飾られ、玄関が一気にクリスマスを迎える雰囲気になりました。道行く人も、ああ教会の飾りつけもいいなあとチラッと見ながら通り過ぎていきます。

ある日のこと、聖園幼稚園の女の子がお母さんと一緒に、飾られた馬小屋を見ていました。そしてお母さんにこう言いました。

「お母さん、赤ちゃんがいないよ。」

お母さんも不思議に思いましたので、事務室に聞きに来ました。

「娘が、赤ちゃんがいないと言うんですが。」

「ああ、それはまだクリスマスが来ていないからです。今、待降節なので赤ちゃんが生まれるのを待っているんです。クリスマスが来て赤ちゃんがそこに生まれるのです。」

お母さんが頷きました。

「ああ、そうなんですね。そう言われたらそうですね。」

お母さんは手を引いていた娘の園児に説明しました。

私はこのやり取りをして、この女の子に感心しました。幼稚園でもクリスマスのお話を聞いていることでしょう。それで馬小屋の様子をちゃんと見ているのですね。その子の疑問をお母さんは流すことなく聞いて、説明しました。さすが聖園幼稚園の母子だと思いました。その日の嬉しい会話でした。この女の子はきっとクリスマスになって赤ちゃんを見つけることでしょう。

受洗おめでとうございます

12 月 4 日（金）10 時のミサで、田中靖さん・美緒子さんご夫妻の長男光さんの奥さんと赤ちゃんの怜君が洗礼を受けられました。聖家族に乾杯🍷

神の母聖マリア
田中愛乃さん
使徒ヤコブ
田中怜君

日曜学校のクリスマス会

今年はいつものクリスマス会のように、
みんなと一緒にケーキを食べたりは出来なかったけど、
簡単なビンゴゲームとプレゼントを頂きました。

南相馬便り　㉒　２０２０年１２月　　援助マリア修道会南相馬修道院　　北村令子

11 月 14 日小高の街にイルミネーションの点灯式がありました。光の祭典。至る所美しい光の波。

10 月末会議のために、福山に帰りました。常磐線で小高駅から各駅停車でいわきまで、その間の車窓から眺める景色にいろんな想いが浮かび、教皇フランシスコが 9 月 1 日から 10 月 4 日（聖フランシスコの祝日）までを「すべてのいのちを守る」月間と定め、全世界の人々に呼びかけられたことを思い出しました。人間のいのちはもとより、小さな虫たちも、草木も、全て、この私たちの家である地球家族のいのちを守るために、日々の小さな行いや想い、祈りで繋がり大切に守るようにと。この景色を眺めながら月間にとどめず、年間、ずっと続く日々にと願います。

小高からいわきまでずっと福島の景色の美しさに感嘆します。３６０度ぐるりと見まわして、その空の広さに、自然に心が広くなるような気がします。でも、線路から海岸までずっと見渡せる草原は、津波で根こそぎさらわれた後に原発事故で農業も復活せず、人も住めなくなった土地は、ススキとセイタカアワダチソウ、葦原の荒れ地と化して、一見晩秋の風情豊かな、黄色に白と緑の美しい色合いの草原に見えますが、本当に寂しい、荒れた、人の営みの感じられない景色がず~っと続くのです。途中停車する駅周辺は申し訳程度に開発が進んでいるような様子はありますが、ちょっと外れると、蔦が丸ごと家を飲み込んでいる風景に心が痛みます。人の動きが見えると思ったら、工事車両のトラック、重機、そして侵入しないようにと見張りに立つ人でした。小高から 40 分くらいたって富岡を過ぎ竜田まで来ると、やっと人の営みを感じられるようになり、広野あたりまで来ると太平洋の広い海が見えてきて人心地つく感じです。こちらに来られることがあれば、一度はいわきから常磐線の鈍行に乗って見ることをお勧めします。

小高も少しずつ変わってきます。私がやってきた昨年から見ても、耕された畑が増えて、小高でとれたお米でお酒を造ろうと、若者が 3 人（地元の青年一人と東京と埼玉からの移住者）で酒蔵を建て（と言っても大きな家を借りて）酒造会社を立ち上げよう

としています。彼らは来春には初の醸造酒が販売できるかと胸を躍らせています。小高のお米がお酒になることは本当に喜ばしいことです。家畜の飼料にしかできないのではないかと思われていたのに。私も一杯やりたい気分になります。でも未だ自然環境の復興は遠いと感じます。

トリチウム汚染水の問題も解決できていません。稀釈して海洋放出で無害だと言われますが、トリチウムがどんな物質なのか、三重水素と言われても、稀釈されても積み重なっていけば、魚や人体にどんな影響を及ぼすものなのか、説明が不十分なのです。そして無害なら東京湾にタンカーで運んで流すことも考えられるのではないでしょうか。これは福島県だけの問題でなく、日本全国の問題なので各地の海洋に放出することも考えなければならないのではないでしょうか？きっと福島県以外の地域の多くの人は、無害なら福島沖の海洋放出に何の疑問も起こさず、なぜ福島がそんなに頑なに反対するのかと思われるのでしょう。原発事故による放射線のために福島県は、農業、漁業、酪農のみならず人までも風評被害にあってきたのです。放射能がうつると、ばい菌扱いされた人々の心の傷は、どんなに深いことでしょう。**これ以上の風評被害は何としてでも避けたいのです。**

今、新型コロナ感染症によって、東京の方々には大変申し訳ないのですが、放射線被害を被った人々の気持ちが少しお分かり頂だけるのではないでしょうか？東京から来ましたと言われると、つい「えっ東京から？」と反応してしまいます。こんな社会を作らないようにしなければと、コロナが警告してくれているようにも思います。**分断でなく、愛と温かい抱擁を！！**

もっともっとお伝えしたい事はありますが、今回はここまでとします。

それでは皆様良いクリスマスをお迎えください‼

南相馬便り㉓２０２０年１２月クリスマス号　援助マリア修道会南相馬修道院　　北村令子

皆様クリスマスおめでとうございます。

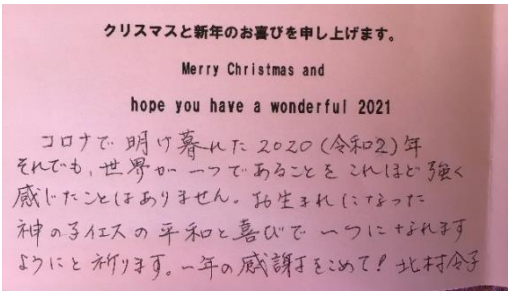
今年のクリスマスはコロナのために特別なものとなりました。密を避けるため、クリスマスイヴのミサと 25 日のミサと二手に分かれて捧げることになり、信者さんたちとの交流もなしになりました。寂しいことですが、第三波の.感染拡大.の状況では致し方がないと思います。

懐かしいお顔

(#^.^#)

ある方はご自分たちのことを「被災者」でなく、「当事者」という表現を使われます。被災者というといつも援助される立場の者と考えられるので、当事者と言いたいと。実際、もう被災者でなく自立していこうとしている者だから、そのような付き合い方をしてほしいと、はっきり言われる方もおられます。でもそのような方ばかりではありません。受けた痛手があまりにも深い方は、まだまだ助けが必要です。ですから支援の在り方を考え、相手の思いを受け止めながら賢明に対応していかなければなりません。

当事者となって降りてきてくださった神、イエスの降誕を思うとき、ここ三重災害の地で、イエスをもっと近く感じることができるように思います。でも、私たちは災害の当事者になることはできません。その苦しみを本当に理解し、共に苦しんでくださるのは、神であるイエスだけです。それでも、それでも、コロナのこの状況の中では、私たちも当事者なのです。そして救い ― 真のいのち・愛、心の安らぎ ― を求めているすべての者は当事者なのです。すべての人が当事者となっている今の世界に、今こそ降りてきて下さった神、イエスを迎えることができますように祈ります。



それでは皆様良いクリスマスと新年をお迎えください

広島教区 教会スタンプラリー巡礼 完 表彰式

写真左から藤井幸恵さん、中島知子さん、小川輝子さん　おめでとうございます！

１月・２月の行事予定

１　月		２　月	
1（金）	神の母聖マリア	2（火）	主の奉献
3（日）	主の公現	5（金）	日本 26 聖人殉教者
10（日）	主の洗礼	7（日）	福山市内巡礼（浦上四番崩れ流配所）
11（月）	成人の日	11（木）	世界病者の日
13（水）	キリスト教一致祈祷集会(会場：福山)	14（日）	聖園幼稚園生活発表展予定
17（日）	聖トマス小崎巡礼	17（水）	灰の水曜日
24（日）	ミカエルフェスタ	22（月）	聖ペトロ使徒座
31（日）	世界こども助け合いの日	25（木）	ヨハネ・パウロ二世来広記念ミサ

2020 年はコロナ感染症で大変な一年を過ごしてまいりました。世界中が恐ろしい渦に巻き込まれ不安の毎日でした。そんな中でも、この月報の中には沢山の喜びが確かにあった一年でもあります。共に祈りながら希望をもってみなさんと一緒に 2021 年を迎えましょう…

今年もよろしくお願いいたします　　月報作成委員会